

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>イギリスは日本と多くの共通点を持ち、古いものと新しいものが共存する魅力に富んだ国です。授業ではイギリスの文化に関する基本文献を講読しながら、イギリスの文化を様々な角度から考察します。またレジュメやレポート作成の指導をおこない、4年次の卒業論文執筆へと発展させます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①イギリスの文化を理解する。          ②レジュメやレポート作成を習得する。          ③卒業論文のテーマを考える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	演習の概要と授業の進め方について解説する					事前：シラバスを熟読する 事後：授業の復習をする			
2	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
3	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
4	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
5	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
6	レジュメを作成する。					事前：配付資料の予習をする 事後：授業の復習をする		解説30分、レジュメ作成60分	
7	レジュメを作成する。					事前：前授業の復習をする 事後：授業の復習をする		レジュメ作成60分、添削30分	
8	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
9	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
10	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
11	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
12	基本文献の精読と解説をする。					事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする		文献講読50分、解説・ディスカッション40分	
13	レポートを作成する					事前：配付資料の予習をする 事後：授業の復習をする		レポート作成の解説30分、作成作業60分	
14	レポートを作成する					事前：配付資料の予習をする 事後：授業の復習をする		レポート作成作業30分 個別指導60分	
15	レポートを発表し、相互評価をする。					事前：配付資料の予習をする 事後：授業の復習をする		レポート発表70分、相互評価20分	

16	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
17	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
18	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
19	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
20	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
21	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
22	小論文の執筆指導をする。	事前：配付資料の予習をする 事後：授業の復習をする	小論文の説明30分、テーマ決定・執筆60分
23	小論文の執筆指導をする。	事前：配布資料の予習をする 事後：授業の復習をする	小論文執筆と個別指導
24	小論文の執筆指導をする。	事前：配布資料の予習をする 事後：授業の復習をする	小論文執筆と個別指導
25	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
26	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
27	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
28	基本文献の精読と解説をする。	事前：文献の予習をする 事後：授業の復習をする	文献講読50分、解説・ディスカッション40分
29	卒業論文について説明する。	事前：配付資料の予習をする 事後：授業の復習をする	卒業論文についての説明、個別指導
30	演習Ⅰの総括、演習Ⅱについての説明	事前：演習Ⅰの内容を見直す 事後：授業の復習をする	解説と個別指導
教本： 授業中に指示します。		参考文献： 授業中に指示します。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（60%）、課題等（40%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、授業に積極的に参加してください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>学術論文としての卒業論文が執筆できるように、論理学（論理的思考力、「論証」「論拠」「前提」「根拠」「結論」「演繹的論証」「帰納的論証」「単純論証」「結合論証」「合流論証」）について説明し、自己肯定感と自己効力感を高め、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）によって、人格形成（モラルの向上）をさせ、人間力（力強く生きていくための力）を養成する。「主体的な学び」への意識の転換を図り、論理的思考力と論文執筆力を身につけさせる。自己肯定感と自己効力感を高め、この授業では、私伊藤幹彦の台湾居住16年（私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で11年准教授）の経験から得た台湾における実際の生きる力（儒教思想という人徳者になること）も説明する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>卒業論文を完成させること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理学（論理的思考力、「論証」「論拠」「前提」「根拠」「結論」「演繹的論証」「帰納的論証」「単純論証」「結合論証」「合流論証」）の修得。</li> <li>2. 論文執筆力（論文とは何か、論文の構成〈序論、本論、結論〉、研究テーマの決定、文献や資料の収集、論文の構想、文献や資料の探し方、図書館活用、文献や資料の分析、注のつけ方、参考文献の書き方）の修得。</li> <li>3. 自己肯定感（自分は今のままで素晴らしいという思考）と自己効力感（自分はできるというプラス思考、信念+努力=成功と考え、自分の目標は必ず達成できると考えること）向上、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。勉学意欲（プラス思考）の修得。以上の1. 2. 3. を基礎とし、卒論を完成させる。</li> </ol>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	演習 I の授業内容の説明（論理学と論文執筆力と自己効力感）をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。質問集に答える。					事前：演習 I の下読みをする。 事後：演習 I のポイントを書く。		講義説明 60 分（含む口頭 Q & A、質問集）。自己紹介 30 分。	
2	論理学（論理的思考力）の説明をする。口頭Q&Aをする。質問集に答える。					事前：論理学の下読みをする。 事後：論理学のポイントを書く。		講義説明 60 分。口頭 Q & A 20 分。質問集 10 分。	
3	論文執筆力（論文の書き方）(1) の説明をする。口頭Q&Aをする。質問集に答える。					事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。		講義説明 60 分。口頭 Q & A 20 分。質問集 10 分。	
4	論文執筆力（論文の書き方）(2) の説明をする。口頭Q&Aをする。					事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。		講義説明 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
5	論文執筆力（論文の書き方）(3) の説明をする。口頭Q&Aをする。					事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。		講義説明 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
6	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(1) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
7	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(2) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
8	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(3) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
9	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(4) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
10	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(5) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
11	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(6) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
12	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(7) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
13	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(8) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
14	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(9) 口頭Q&Aをする。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 30 分。	
15	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(10) 口頭Q&Aをする。質問集に答える。					事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。		卒論指導 60 分。口頭 Q & A 20 分。質問集 10 分。	

16	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(11) 口頭Q&Aをする。質問集に答える。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 20分。質問集 10分。
17	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(12) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
18	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(13) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
19	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(14) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
20	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(15) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
21	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(16) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
22	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(17) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
23	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(18) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
24	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(19) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
25	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(20) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
26	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(21) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
27	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(22) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
28	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(23) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
29	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(24) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。
30	演習Ⅰのまとめをする。口頭Q&Aをする。質問集に答える。卒論を大学に提出する。	事前：演習Ⅰの準備をする。 事後：演習Ⅰのまとめをする。	講義説明 60分（含む口頭Q&A、質問集）。練習問題 30分。
教本： プリントを配布する。		参考文献： 戸田山和久、『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』、日本放送出版協会、2012年、¥1,320。 福澤一吉、『論理的思考——最高の教科書』、SBクリエイティブ、2017年、¥1,100。 S・トゥールミン著、戸田山和久・福澤一吉訳、『議論の技法——トゥールミンモデルの原点』、東京図書、2011年、¥3,520。	
成績評価の方法、評価基準： 卒業論文（40%）。授業態度やアクティブラーニングや課題への参加や授業への寄与度などの平常点（60%）。			
学生へのアドバイス： 私伊藤幹彦は基礎ゼミの授業を通して学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー、「できるという信念があれば、勉強は必ずできるようになる」と自己肯定感とファシリテーションで学生の皆さんのやる気を引き出し、成績を高める。頭脳の知性（総合ゼミⅡの専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。毎回学生の皆さんにA4の紙を配り、質問集に、質問、意見、感想を書いてもらう。学生の皆さんの質問は歓迎する。儒教思想でいう人徳者になることも説明する。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担当教員	上地 一郎								
履修条件	前提科目	私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法／人的担保法／物的担保法など履修していることが望ましい。							
	その他	多領域の法律科目も履修してもらいたい。							
授業概要： 民法財産法は、市民社会の取引の基本法として、私たちの生活の大半をカバーしています。ゼミでは、民法財産法の主要な論点や最近の改正をとりあげ、専門書、論文、判例等を検討することで、民法財産法の基礎知識の修得を図り、法的思考を深めることを目的としています。 そのため、参加者には、まず自らの課題探しに始まり、設定した課題について法的な論点の抽出、学説や判例の分析をもとに発表を行ってまいります。そしてゼミ生の間での積極的なディスカッションを通して自らの課題に対してより深く接近してもらいたいと思います。									
授業目標： 民法財産法の基本的な知識を習得し、その法的な論点はどのようなものかについて説明し、自らの見解と解決方法を説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 演習の進行について説明する					事前：なし 事後：配布資料の見直し		演習	
2	前期役割分担と共通テーマについて話し合う					事前：テーマを考える 事後：テーマを考える		演習	
3	リーガル・レポートの方法について解説する					事前：テーマを考える 事後：テーマを考える		演習	
4～13	分担者の報告とディスカッションをおこなう					事前：各自報告の準備 事後：報告の見直し		演習	
14	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前：報告の準備 事後：報告の見直し		演習	
15	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前：報告の準備 事後：報告の見直し		演習	
16	後期役割分担と共通テーマについて話し合う					事前：テーマを考える 事後：テーマを考える		演習	
17～27	分担者の報告とディスカッションをおこなう					事前：各自報告の準備 事後：報告の見直し		演習	
28	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前：報告の準備 事後：報告の見直し		演習	
29	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前：報告の準備 事後：報告の見直し		演習	
30	まとめふりかえり					事前：1年間を振り返る。 事後：次年度に向けた改善		演習	
教本： 民事法入門〔第9版〕（有斐閣アルマ）¥1980 税込 ポケット六法等					参考文献： 民法判例百選Ⅰ〔第9版〕（有斐閣）¥2,420 税込 民法判例百選Ⅱ〔第9版〕（有斐閣）¥2,420 税込 『リーガル・リサーチ&レポート』（有斐閣）第2版 ¥1,813 税込				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 大学4年間は長いようでいて、あっという間に過ぎていきますので、在学中にいろいろなことに取り組んでもらいたいと思います。ゼミもその一環です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>観光産業は、政治、経済、産業、歴史、文化など広範囲の知識を必要とする一方、自分の専門分野を持つことが要求されるので、基本的な知識を身に付けた上で、自分の研究テーマを決め、研究し、プレゼンする能力を身につける。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 得意分野をプレゼンできる。  2. 政治・経済・文化・産業に関心を持つようになる。  3. 課題をみつけ、解決することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
2～6	政治、経済研究とディスカッション					事前：時事問題研究 事後：時事問題理解		講義 30 分、演習 60 分	
7～15	プレゼンテーションとディスカッション					事前：専門分野研究 事後：専門分野理解		講義 30 分、演習 60 分	
16～24	企業・産業研究とディスカッション					事前：時事問題研究 事後：時事問題理解		講義 30 分、演習 60 分	
25～30	プレゼンテーションとディスカッション					事前：専門分野研究 事後：専門分野理解		演習	
<p>教本： 適宜プリントを配布する。</p>					<p>参考文献： 高橋秀夫著「クラブツーリズムの秘密」毎日新聞社 ¥1,800+税</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。  授業内容への参加状況等（80%）レポート等（20%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：  社会の動きを自分で考え、議論できるようになろう。</p>									
<p>オフィスアワー：  初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>演習 I では、卒業論文につながるような基礎知識やスキルの獲得をめざす。各自の興味・関心に沿った論文を読み、ディスカッションを取り入れながら授業を展開する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>次年度の卒業論文作成に向け、計画を立て、論文作成の基礎能力を育成し、情報収集活動のノウハウを身につけさせる。研究テーマを見つけさせる。この科目は、次世代育成支援等において地域コミュニティづくりに指導的役割が発揮できる人材を養成する科目である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	文章読解Ⅰ－(短文を読む)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		講義 90分	
3	文章読解Ⅱ－(新聞を読む)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習 90分	
4	文章読解Ⅲ－(報告書を読む)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習 90分	
5	文章読解Ⅳ－(小論文を読む)					事前：なし 事後：学んだことの整理		演習 90分	
6	卒論テーマ検討Ⅰ－(興味・関心をもとに)					事前：自分の興味の整理 事後：学んだことを文書でまとめる		演習 90分	
7	卒論テーマ検討Ⅱ－(グループディスカッションを通じて)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの文書化		演習 90分	
8	プレゼンテーションⅠ－(自己表現とは)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習 90分	
9	プレゼンテーションⅡ－(表現の種類)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習 90分	
10	プレゼンテーションⅢ－(論理的展開)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習 90分	
11	文章の書き方Ⅰ－(日本語の特徴)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習 90分	
12	文章の書き方Ⅱ－(論文の作法)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習 90分	
13	プレゼンテーションⅣ－(論理と感情の視点から)					事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省		演習 90分	
14	プレゼンテーションⅤ－(説得力ある表現)					事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省		演習 90分	
15	前期まとめ					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習 90分	

16	夏休みの報告	事前：前回のまとめ 事後：	演習 90分
17	文章読解Ⅴ－(子どもに関する書籍を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90分
18	文章読解Ⅵ－(保育に関する書籍を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90分
19	文章読解Ⅶ－(子どもに関する学術論文を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90分
20	文章読解Ⅷ－(保育に関する学術論文を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90分
21	卒論テーマ検討Ⅲ－(図書館を利用して)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことを文書でまとめる	演習 90分
22	卒論テーマ検討Ⅳ－(ネット環境の情報から)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの文書化	演習 90分
23	プレゼンテーションⅥ－(PCソフトの使い方)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90分
24	プレゼンテーションⅦ－(自分の主張をデータにまとめるためには)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90分
25	プレゼンテーションⅧ－(表現技法)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習 90分
26	文章の書き方Ⅲ－(文章の基本構成)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90分
27	文章の書き方Ⅳ－(洗練された文章の表現)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90分
28	プレゼンテーションⅨ－(いかにして他者を説得できるか)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習 90分
29	プレゼンテーションⅩ－(自己表現の仕方を振り返る)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習 90分
30	まとめ	事前：前回のまとめ 事後：今後の課題の整理	演習 90分
教本： 『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著（講談社）		参考文献： 授業時に適宜、指示する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 絶えず、子ども・保育・教育の時事的問題に関心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小柏 喜久夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 組織論の基礎とリーダーシップの諸理論を学習したうえで、組織文化の視点からリーダーシップにアプローチしていきます。									
授業目標： 卒業論文研究の基礎づくり。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	演習の概要について説明および質疑・応答				事前：シラバスおよび演習ガイダンスの精読 事後：シラバスおよび演習ガイダンスに沿って要点を確認する			説明 60分、質疑応答 30分	
2	輪読の計画を提示、説明				事前：配付資料の精読 事後：計画の確認			説明 60分、質疑応答 30分	
3～29	文献研究—報告と討議				事前：報告、討議の準備 事後：報告・討議のまとめ			報告 30分、質疑討議 60分	
30	春休みの学習計画、四年度への準備について話し合い				事前：卒業論文のテーマを考える 事後：卒業論文の構想を練る			質疑討議・助言 90分	
教本： 1. 専門基礎の教本は、ゼミ生と相談のうえ決めます 2. 山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』 ミネルヴァ書房、¥2,400+税					参考文献： 適宜、紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 出席率100%への努力を求めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本演習では、情報セキュリティ、および情報教育支援ソフトを支えるコンピュータ技術について、知見を深め、研究へと繋げる。									
授業目標： (1) 情報セキュリティ（暗号・認証・セキュリティ）を支えるコンピュータ技術について、事例を通して、実践的に理解する。 (2) 二次元コード、及び情報教育支援ソフトの利用方法、応用ソフトの作成、比較評価などの研究を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイダンス、及び情報社会、情報セキュリティの概要について説明する。				事前：シラバスを読む。 事後：配布資料を読む。		講義 40分、ディスカッション 50分		
2	情報セキュリティの必要性、対策について学ぶ。その課題を行う。				事前：情報セキュリティを調べる。 事後：情報セキュリティ基礎を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
3	暗号の歴史、及び暗号概論について学ぶ。その課題を行う。				事前：暗号について調べる。 事後：暗号を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
4	共通鍵暗号、公開鍵暗号について学ぶ。その課題を行う。				事前：共通鍵暗号、公開鍵暗号について調べる。 事後：共通鍵暗号、公開鍵暗号を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
5	パスワードについて学ぶ。その課題を行う。				事前：パスワードについて調べる。 事後：パスワードを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
6	サイバー犯罪について学ぶ。その課題を行う。				事前：サイバー犯罪について調べる。 事後：サイバー犯罪を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
7	情報通信倫理について学ぶ。その課題を行う。				事前：情報通信倫理について調べる。 事後：情報通信倫理を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
8	ハッカー倫理について学ぶ。その課題を行う。				事前：ハッカー倫理について調べる。 事後：ハッカー倫理を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
9	情報セキュリティ対策について学ぶ。その課題を行う。				事前：情報セキュリティ対策について調べる。 事後：情報セキュリティ対策を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
10	PGP (Pretty Good Privacy) について学ぶ。その課題を行う。				事前：PGP について調べる。 事後：PGP を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
11	電子メールのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。				事前：電子メールのセキュリティについて調べる。 事後：電子メールのセキュリティを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
12	WEBシステムのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。				事前：WEBシステムのセキュリティについて調べる。 事後：WEBシステムのセキュリティを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		
13	無線LANのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。				事前：無線LANのセキュリティについて調べる。 事後：無線LANのセキュリティを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分		

14	クラウドのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。	事前：クラウドのセキュリティについて調べる。 事後：クラウドのセキュリティを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
15	スマートフォンのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。	事前：スマートフォンのセキュリティについて調べる。 事後：スマートフォンのセキュリティを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
16	プライバシー、及びネット詐欺と対策について学ぶ。その課題を行う。	事前：プライバシーについて調べる。 事後：プライバシーを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
17	ウィルスの基礎知識について学ぶ。その課題を行う。	事前：ウイルスについて調べる。 事後：ウイルスなどを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
18	ウイルス感染防止・駆除対策について学ぶ。その課題を行う。	事前：ウイルス感染防止について調べる。 事後：ウイルス感染防止・駆除対策を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
19	認証概論について学ぶ。その課題を行う。	事前：認証概論について調べる。 事後：認証概論を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
20	不正攻撃について学ぶ。その後、課題を行う。	事前：不正攻撃について調べる。 事後：不正攻撃を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
21	情報セキュリティにおけるデジタル認証技術の概要、動向、及び次世代デジタル認証技術を説明し、課題を行う。	事前：デジタル認証技術を調べる。 事後：デジタル認証技術を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
22	メッセージ認証子 (MAC) について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前：MACについて調べる。 事後：MACを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
23	ハッシュ (Hash) について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前：Hashについて調べる。 事後：Hashを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
24	デジタル署名について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前：デジタル署名を調べる。 事後：デジタル署名を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
25	多要素認証について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前：多要素認証を調べる。 事後：多要素認証を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
26	生体認証について説明し、映像を見ながらディスカッションを行い、その課題を行う。	事前：生体認証について調べる。 事後：生体認証を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
27	情報セキュリティ関連の最新話題について説明する。その課題を行う。	事前：情報セキュリティの最新話題を調べる。 事後：情報セキュリティの最新話題を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、 課題 20分
28	論文検索、及び研究調査を行う。	事前：研究計画を作成する。 事後：研究計画をもとに分析を行う。	講義 20分、ディスカッション 70分
29	研究発表を行う。	事前：発表資料を作成する。 事後：問題点を整理する。	発表 60分、ディスカッション 30分
30	まとめとディスカッションを行う。	事前：新たな課題を設定する。 事後：研究する。	講義 30分、ディスカッション 60分
教本： (授業内で指示)		参考文献： (授業内で指示)	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (50%)、レポート等 (50%) で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 毎回課題点を明らかにして授業に臨んで下さい。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 実践活動などを踏まえて、「現場を知る」、「資料を読み込む」、「アイデアを発想する」、「表現する」、そして「報告する」ことの技術習得を行うとともに、通常授業を基礎とした自身の自主的な研究課題解決を図る。地域での活動内容は地域の受入体制等の状況により決定する。現地活動は授業の振り替えで行うものとする。									
授業目標： 1. 観光地域振興の実践的能力の育成。 2. 提案・まとめ・発表能力の育成及び社会人に向けての自立のための意識向上。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	演習活動の確認：年間テーマ・スケジュール案の検討を確認する。				事前：演習内容の理解 事後：年間スケジュールの調整			講義40分、ディスカッション20分、 自主作業30分	
2～4	自身の研究活動の1年間、2年間の課題の設定及び研究手順の検討を行う。 また、論文の書き方について学修する。				各回修正・調整： 事前：年間テーマ、卒論(レポート)内容の検討 事後：年間テーマ、卒論(レポート)内容のまとめ			講義40分、ディスカッション20分、 自主作業30分	
5～10	活動地域の候補は、厚木市、神奈川県、新潟県など。その他自身の研究活動のテーマに応じて地域を選定し実施する。時期は調整の上決定				実施前：資料文献調査等により実施地域の現状を理解 実施後：活動内容等のまとめ及び自身の課題解決を図る			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり	
11・12	前期まとめ作業：現地調査のまとめ、資料文献調査など、前期研究活動のまとめを行う。				事前：まとめ作業を行う 事後：まとめ作業を行う			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり	
13～15	前期まとめ：前期の活動実績を踏まえた自身の研究活動のまとめを行う。				事前：中間報告書を作成 事後：後学期に向けた作業検討を行う。			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり	
16・17	課題の整理：前期作業を踏まえて、研究課題、研究方法等の修正及び後学期作業スケジュールの確立を行う。				事前：研究テーマのまとめ 事後：研究テーマのまとめ			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり	
18～25	地域において研究活動を行う。実施地域は自身の研究テーマにより決定する。 地域での活動の実施時期は、現地の状況等により決定する。				実施前：資料文献調査等により実施地域の現状を理解。 実施後：現地活動及びヒヤリング内容等のまとめ及び自身の課題解決を図る			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり	
26～27	前期のまとめを踏まえ、1年間の研究成果のまとめを行う。 現地調査のまとめ、資料文献調査などを行う。				事前：まとめ作業を行う 事後：まとめ作業を行う			講義30分、 自主作業60分	
28～30	年間テーマのまとめ作業を行う。地域活動・資料文献調査・意見交換等を踏まえ年間テーマのまとめ作業を行う。				各回：事前：意見交換を踏まえ課題解決・内容の整理 事後：まとめ作業を行う			講義30分、 自主作業60分	
教本： なし				参考文献： テーマに応じて指示					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 レポート・PPT等（50%）、地域活動（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 研究心をもって自主的に勉強する意欲を持つこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	佐久間 信夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>演習のテーマはCSRですが、プレゼンテーションや討論、共同研究などを通して、コミュニケーション能力や協調性、社会性を養っていきます。卒論テーマは各自が自由に決めます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>論理的に思考し、それを表現することができる。プレゼンテーションや討論での確な受け答えができる。仲間と協力して調査・研究をし、1つの結論を導くことができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方、成績評価の仕方、レジメ作成方法等					事前：なし 事後：配布資料の確認		講義	
2	企業の社会的責任					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
3	企業の社会的責任論					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
4	企業の社会貢献					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
5	会社機関によるコーポレート・ガバナンス					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
6	外部監視によるコーポレート・ガバナンス					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
7	社会的責任投資（SRI）					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
8	企業倫理の制度化					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
9	アメリカにおける企業倫理					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
10	日本における企業倫理					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
11	コンプライアンス・マネジメント					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
12	企業の環境経営					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
13	環境経営戦略					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
14	排出権取引と環境経営					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	
15	企業と環境ビジネス					事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正		プレゼンテーション	

16	授業の進め方、成績評価の仕方、レポート等	事前：なし 事後：配布資料の確認	講義
17	卒論テーマの発表	事前：レジメ作成 事後：レジメ修正	プレゼンテーション
18	卒論テーマの発表	事前：レジメ作成 事後：レジメ修正	プレゼンテーション
19	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
20	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
21	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
22	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
23	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
24	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
25	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
26	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
27	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
28	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
29	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
30	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション
教本： 佐久間・矢口・山田編著『ESG経営の展開』同文館出版		参考文献：	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（80%）、小テスト・レポート等（20%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： ゼミの仲間と楽しみながら、社会人としての能力を養ってください。大学生の生活で、最も充実しているのがゼミの活動です。積極的に参加してください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論の単位を修得していること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>経営学の諸問題の中から、各学生の興味・関心のある内容について学習し、最終的には研究成果を外部の研究発表大会にて発表することを目的とする。また、上記の目標を達成した内容をベースに演習Ⅱにおける卒業論文を執筆する基礎力を身につけることも目的とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学の興味・関心のある領域に関する幅広い知識を身につける。</li> <li>・経営学の学習を通して、プレゼン方法、情報収集能力、コミュニケーション能力といった就職活動で求められる内容についての能力を養う。卒業論文の研究テーマを決める。</li> </ul>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	環境変化と多角化経営					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分	
3	事業変革と革新					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分	
4	外部環境への適応と新事業創造					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分	
5	ミッションとビジョン					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分	
6	事業領域とコアコンピタンス経営					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分	
7	課題図書の輪読 ① 要約の作成					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク 90分	
8	課題図書 of 輪読 ② パワーポイント資料の作成					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク 90分	
9	課題図書 of 輪読 ③ プレゼンテーションの方法					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク 90分	
10	論理的思考や経営学における考え方					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク 90分	
11	グループ発表 ①					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク 90分	
12	グループ発表 ②					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク 90分	
13	グループ発表 ③					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク 90分	
14	PPM分析					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分	
15	金のなる木の衰退と事業の撤退					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分	

16	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング ①	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
17	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング ②	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
18	オープン・イノベーションと大企業の新事業創造	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
19	企業の資料収集方法	事前：なし 事後：情報収集方法の確認	講義 90分
20	グループ発表 ④	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
21	グループ発表 ⑤	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
22	グループ発表 ⑥	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
23	プレゼン大会への準備 ①	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分
24	プレゼン大会への準備 ②	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分
25	プレゼン大会への準備 ③	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分
26	卒業論文研究テーマの発表 ①	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分
27	卒業論文研究テーマの発表 ②	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分
28	卒業論文研究テーマの発表 ③	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分
29	1年間の振り返り	事前：なし 事後：なし	グループワーク 90分
30	演習のまとめ	事前：なし 事後：なし	グループワーク 90分
<p>教本： 佐久間信夫編(2024)『入門企業論』法律文化社 初回に学生の学びたい内容を確認し、決定する（特になければ経営戦略論をベースに検討する）。</p>		<p>参考文献： 初回に学生の学びたい内容を確認し、決定する。</p>	
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 原則、外部の研究発表大会に出場することを求めます。相応の参加意欲がある学生を望みます。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	ビジネス法Ⅰ・Ⅱ、企業組織法Ⅰ・Ⅱ (同時履修も含め、好ましい。)							
	その他	なし							
授業概要： 企業に関する法について研究を行います。中心となるのは、商法と会社法です。民法、経済法の話にも及びます。今日の経済社会の中で、企業はどうあるべきか、また、どう経営されていくべきか等、法的側面から考察していきます。									
授業目標： 企業法としての商法・会社法について深く考察し、卒業論文につなげていく事を目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。企業法の特徴を示し、企業法を学んでいくうえで得心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、企業法分野についての事前のチェックをする。企業法とは何かについて考える。			講義30分、 質疑応答60分。		
2	事業を行うための法形態 (企業形態) について概観し、その創意と相違について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：事業を行うための法形態 (企業形態)、その課題と活用について確認をする。 事後：事業を行うための法形態 (企業形態)、その課題と活用について確認し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
3	会社の権利能力およびその制限について概観し、会社の権利能力について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：会社の権利能力およびその制限、その課題と対策について確認する。 事後：会社の権利能力およびその制限、その課題と対策について確認し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
4	権利能力なき社団について概観し、会社の権利能力について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：権利能力なき社団について、その課題と対策について確認する。 事後：権利能力なき社団について、その課題と対策について確認し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
5	会社の使用人と代理商について概観し、会社の人的施設 (事業の補助システム) について深く理解し、会社運営、課題と活用について検討する。			事前：会社の人的施設 (事業の補助システム) を確認し、会社運営、課題と活用について考察する。 事後：会社の人的施設 (事業の補助システム) を確認し、会社運営、課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
6	会社の事業譲渡について概観し、事業譲渡について深く理解し、その課題と活用を検討する。			事前：事業譲渡について確認し、その課題と活用を考察する。 事後：事業譲渡について確認し、その課題と活用を考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
7	株式会社の特質について概観し、株式会社の特質について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：株式会社の特質について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：株式会社の特質について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
8	株式会社の規模等に応じた規制について概観し、株式会社の規模等に応じた規制を深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：株式会社の規模等に応じた規制について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：株式会社の規模等に応じた規制について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
9	企業グループに関する規制について概観し、企業グループに関する規制について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：企業グループに関する規制について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：企業グループに関する規制について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
10	変態設立事項について概観し、変態設立事項について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：変態設立事項について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：変態設立事項について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
11	設立中の会社と発起人組合について概観し、設立中の会社と発起人組合について深く理解し、その課題と活用を検討する。			事前：設立中の会社と発起人組合について確認し、その課題と活用を考察する。 事後：設立中の会社と発起人組合について深く理解し、その課題と活用を検討し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
12	違法な会社設立・会社不成立と会社組織に関する訴えについて概観し、違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて確認し、その課題と対策について考察する。 事後：違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
13	会社設立に関する設立関与者等の責任について概観し、会社設立に関する設立関与者等の責任について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：会社設立に関する設立関与者等の責任について確認し、その課題と対策について考察する。 事後：会社設立に関する設立関与者等の責任について確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		

14	株式と資本金の額との関係について概観し、株式と資本金の額との関係について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式と資本金の額との関係について確認し、その課題について考察する。 事後：株式と資本金の額との関係について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
15	株式の法的性質について概観し、株式の法的性質について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式の法的性質について確認し、その課題について考察する。 事後：株式の法的性質について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
16	株主の監督是正権について概観し、株主の監督是正権について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主の監督是正権について確認し、その課題について考察する。 事後：株主の監督是正権について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
17	株主平等の原則について概観し、株主平等の原則について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主平等の原則について確認し、その課題について考察する。 事後：株主平等の原則について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
18	株主の権利行使に関する利益供与の禁止について概観し、株主の権利行使に関する利益供与の禁止について深く理解し、その課題と対策について検討する。	事前：株主の権利行使に関する利益供与の禁止について確認し、その課題と対策について考察する。 事後：株主の権利行使に関する利益供与の禁止について確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
19	自己株式の取得について概観し、自己株式の取得について深く理解し、その課題について検討する。	事前：自己株式の取得について確認し、その課題について考察する。 事後：自己株式の取得について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
20	株式発行による資金調達について概観し、株式発行による資金調達について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式発行による資金調達について確認し、その課題について考察する。 事後：株式発行による資金調達について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
21	株式会社の機関設計に関する規制について概観し、株式会社の機関設計に関する規制について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式会社の機関設計に関する規制について確認し、その課題について考察する。 事後：株式会社の機関設計に関する規制について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
22	株主総会の権限について概観し、株主総会の権限について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主総会の権限について確認し、その課題について考察する。 事後：株主総会の権限について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
23	株式の相互保有について概観し、株式の相互保有について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式の相互保有について確認し、その課題について考察する。 事後：株式の相互保有について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
24	株主総会の決議方法と決議の瑕疵について概観し、株主総会の決議方法と決議の瑕疵について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主総会の決議方法と決議の瑕疵について確認し、その課題について考察する。 事後：株主総会の決議方法と決議の瑕疵について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
25	会社の業務執行と代表について概観し、会社の業務執行と代表について深く理解し、その課題について検討する。	事前：会社の業務執行と代表について確認し、その課題について考察する。 事後：会社の業務執行と代表について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
26	取締役と会社との関係について概観し、取締役と会社との関係について深く理解し、その課題を検討する。	事前：取締役と会社との関係について確認し、その課題を考察する。 事後：取締役と会社との関係について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
27	会社と取締役の利益相反行為について概観し、会社と取締役の利益相反行為について深く理解し、その課題を検討する。	事前：会社と取締役の利益相反行為について確認し、その課題を考察する。 事後：会社と取締役の利益相反行為について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
28	取締役の報酬について概観し、取締役の報酬について深く理解し、その課題を検討する。	事前：取締役の報酬について確認し、その課題を考察する。 事後：取締役の報酬について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
29	取締役の会社に対する責任について概観し、取締役の会社に対する責任について深く理解し、その課題について検討する。	事前：取締役の会社に対する責任について確認し、その課題について考察する。 事後：取締役の会社に対する責任について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
30	取締役の第三者に対する責任について概観し、取締役の第三者に対する責任について深く理解し、その課題について検討する。	事前：取締役の第三者に対する責任について確認し、その課題について考察する。 事後：取締役の第三者に対する責任について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝える。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（25%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： テーマを割当、報告することを求めます。授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>企業は、日々、利益獲得を目的のひとつとして活動している。そして、活動した結果を、簿記の知識と技術を使って一組の財務諸表を作成し、報告することになる。本演習では、「簿記会計」をテーマとして、これに基づく知識、特に財務会計を中心に理解を深める。</p> <p>また、演習Ⅱで卒業論文を作成することを前提に、演習Ⅰの授業を行っていく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>演習Ⅰをとおして、演習Ⅱで卒業論文を作成できる知識や能力（心構えを含む）を身につけることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション ゼミの目的の確認、報告事項の確認、報告の順番決め等を行う。					事前：特になし 事後：次回以降のための準備		講義 90分	
2	複式簿記の理解確認 ゼミを行ううえで必要となる簿記の知識を確認する。					事前：報告準備と内容の確認 事後：テーマ内容の追加研究		講義 20分 演習 70分	
3～27	報告（個別論点） それぞれに割り当てた報告事項について報告してもらう。					事前：報告準備と内容の確認 事後：テーマ内容の追加研究		報告 50分 質疑 40分	
28～30	報告（卒業論文の下準備） それぞれのテーマに基づいてまとめて報告してもらう。					事前：報告準備と内容の確認 事後：内容の再確認と改善		報告 50分 質疑 40分	
教本： 桜井久勝『財務会計講義』（最新版）、中央経済社。					参考文献： 適宜、指示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>平常点（30%）とレポート・報告（70%）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>毎回の授業に参加することが必須の条件になる。また、ゼミ生同士で協力するべきときにきちんと協力すること。</p> <p>なお、シラバスの計画は予定であり、適宜必要に応じて内容を柔軟に変更する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田村 修一								
履 修 条 件	前提科目	心理学の研究法に関する各科目を履修済みであることが望ましい。							
	その他	大学での学びの集大成として「卒業論文」を書き上げるという強い意志をもって履修してほしい。							
<p>授業概要：</p> <p>前期は、心理学研究の視野を広げる目的で、最近とくに注目されている「非認知能力」と「ポジティブ心理学」に関する代表的文献を購読し、学生の発表およびゼミ生全員でディスカッションを行う。後期は、4年次に卒業論文を書き上げる土台となる心理学の研究方法の理解と習得を目指す。そして、年度末を目標に4年次の「卒業論文の研究構想」を発表できることを目指す。</p>									
<p>授業目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の心理学研究において、「非認知能力」や「ポジティブ心理学」に関する研究がどの程度進んでいるのか、概要を理解できる。</li> <li>・文献購読やディスカッションでの学びを通して、「卒業論文」の研究テーマの設定につなげることができる。</li> <li>・「卒業論文」の作成に必要な研究方法およびデータ分析のための統計ソフトを操作できる技能を身に付ける。</li> </ul>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	前期オリエンテーション：非認知能力とポジティブ心理学					事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返り		講義30分 演習60分	
2	「ヘックマン研究」に学ぶ：人生における非認知能力の重要性					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		講義45分 演習45分	
3	「マシュマロテスト」に学ぶ：幼少期の非認知能力とその後					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		講義45分 演習45分	
4	GRIT：やり抜く力（アンジェラ・ダックワース）①					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		演習90分	
5	GRIT：やり抜く力（アンジェラ・ダックワース）②					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		演習90分	
6	GRIT：やり抜く力（アンジェラ・ダックワース）③					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		演習90分	
7	マインドセット（キャロル・S・ドゥエック）①					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		演習90分	
8	マインドセット（キャロル・S・ドゥエック）②					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		演習90分	
9	マインドセット（キャロル・S・ドゥエック）③					事前：文献購読 事後：中間レポート作成		演習90分	
10	「中間振り返りレポート」の発表会					事前：発表のリハーサル 事後：学びの振り返り		演習90分	
11	ポジティブ心理学（セリグマン）①					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		演習90分	
12	ポジティブ心理学（セリグマン）②					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		演習90分	
13	ポジティブ心理学（セリグマン）③					事前：文献購読 事後：学びの振り返り		演習90分	
14	ポジティブ心理学（チクセントミハイ）④					事前：文献購読 事後：期末レポートの作成		演習90分	
15	「学期末の振り返りレポート」の発表会					事前：発表のリハーサル 事後：学びの振り返り		演習90分	

16	後期オリエンテーション：心理学の研究方法を学ぶ	事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返り	講義30分 演習60分
17	量的研究と質的研究のメリット・デメリット	事前：教材資料を読む 事後：学びの振り返り	講義60分 演習30分
18	先行研究のレビューの仕方、および文献の整理の仕方	事前：教材資料を読む 事後：文献検索の実施	講義60分 演習30分
19	質問紙調査法の概要	事前：教材資料を読む 事後：質問項目の作成	講義70分 演習20分
20	インタビュー調査法の概要	事前：教材資料を読む 事後：質問項目の作成	講義70分 演習20分
21	KH-Coderを用いた心理学の研究手法	事前：教材資料を読む 事後：KH-Coderの操作	講義70分 演習20分
22	研究倫理について学ぶ	事前：教材資料を読む 事後：書類の作成練習	講義60分 演習30分
23	先行研究論文を読む①（発表）	事前：文献検索の実施 事後：文献整理の練習	演習90分
24	先行研究論文を読む②（発表）	事前：文献検索の実施 事後：文献整理の練習	演習90分
25	プロポーザル（研究構想）の書き方	事前：教材資料を読む 事後：プロポーザルの作成	講義60分 演習30分
26	心理統計とSPSSの操作を学ぶ①	事前：教材資料を読む 事後：プロポーザルの作成	演習90分
27	心理統計とSPSSの操作を学ぶ②	事前：教材資料を読む 事後：プロポーザルの作成	演習90分
28	心理統計とSPSSの操作を学ぶ③	事前：教材資料を読む 事後：プロポーザルの作成	演習90分
29	「卒業論文」研究構想発表会①	事前：発表のリハーサル 事後：学びの振り返り	演習90分
30	「卒業論文」研究構想発表会②	事前：発表のリハーサル 事後：学びの振り返り	演習90分
教本： 「GRIT：やり抜く力」アンジェラ・ダックワース著 ダイアモンド社 2016 「マインドセット」キャロル・S・ドゥエック著 草思社 2016 「ポジティブ心理学の挑戦」マーティン・セリグマン著 デイスクヴァー・トゥエンティワン 2014		参考文献： 「幼児教育の経済学」ジェームズ・J・ヘックマン著 東洋経済新報社 2015 「マシユマロテスト：成功する子・しない子」ウォルター・ミシェル著 早川書房 2015 「超初心者向：SPSS統計解析マニュアル」米川和雄・山崎貞政著 北大路書房 2010	
成績評価の方法、評価基準： 毎回の授業の参加状況等（50%）、前期「中間・期末レポート」、後期「卒業論文構想レポート」（50%）の総合評価。			
学生へのアドバイス： 大学の学びの集大成として「卒業論文」を書き上げてほしいと思います。その土台作りの一年間の学びにいきましょう。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>演習 I では、次年度の卒業論文につながるように基礎知識やスキルの獲得をめざします。主体的にゼミに取り組んでもらうことを通じて、一人一人の成長につなげていきたいと考えています。読む・書く・プレゼンをするといったスキルを身につけていきましょう</p>									
<p>授業目標：</p> <p>来年度の卒業論文のテーマを各自がみつけます。また、卒業論文作成のために必要な基礎力の育成をめざします</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：授業を通じて何を考えたかまとめる		講義 30分・グループワーク 30分・発表 30分	
2	文章読解 I 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います					事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分	
3	文章読解 II 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います					事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分	
4	文章読解 III 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います					事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分	
5	文章読解 IV 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います					事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分	
6	文章読解 V 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います					事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分	
7	卒論テーマの検討 自分が今どういうことに興味関心があるのか話し合い、次年度の卒論テーマの方向性を探ります					事前：自分の興味関心を整理する 事後：授業で何を考えたかまとめる		講義 10分・ディスカッション 60分・発表 20分	
8	プレゼンテーション I テーマ設定 テーマ設定グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担していきます					事前：自分の興味関心についての文献をよむ 事後：分担にそって作業		講義 10分・グループワーク 80分	
9	プレゼンテーション II 準備 準備グループ毎に素材をもちより、流れをきめ、補足する資料等を検討していきます					事前：作業割り当てに沿って準備 事後：プレゼン資料を作成する		グループワーク 90分	
10	プレゼンテーション III 発表 発表グループ毎にプレゼンテーションをし、互いに改善点を話し合います					事前：プレゼンのシミュレーション 事後：プレゼンで何を改善すべきかをまとめる		発表 60分・ディスカッション 30分	
11	データの読み方 量的調査についてどう理解するかを理解します					事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義 70分・ディスカッション 20分	
12	データの活用の仕方：レポートや論文において、各種データをどう活用するか理解します					事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義 60分・グループワーク 30分	
13	データの活用の実践 I 各自、データを使ってミニレポートを作成します					事前：配付資料をよむ 事後：レポートの改善点を考える		講義 90分	
14	データの活用の実践 II 各自、データを使ったプレゼンテーションを行います					事前：プレゼン資料を作成 事後：プレゼンの改善点を考える		講義 10分・発表 50分・ディスカッション 30分	
15	前期のふりかえり 前期の活動を総括し、自分の成長を理解し、今後の課題を設定します					事前：前期の自分をふりかえっておく 事後：課題をどう実践するか考える		講義 30分・ディスカッション 60分	

16	夏休みの報告 前期の課題を夏休み期間中どう実践したのかを報告し、後期の課題とそのための方策についてまとめます	事前：夏休みの活動を振り返る 事後：どう実践するか考える	講義 20分・発表 50分・ディスカッション 20分
17	文章読解Ⅵ 各自関心がある領域の文献を読み、話し合います	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義 60分・ディスカッション 30分
18	文章読解Ⅶ 各自関心がある領域の文献を読み、話し合います	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義 60分・ディスカッション 30分
19	文章読解Ⅷ 各自関心がある領域の文献を読み、話し合います	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義 60分・ディスカッション 30分
20	プレゼンテーションⅣ テーマ設定 テーマ設定グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担します	事前：テーマ案を考える 事後：分担にそって作業	講義 10分・グループワーク 80分
21	プレゼンテーションⅤ 準備 準備グループ毎に素材をもちより、補足する資料等を検討します	事前：持ち寄る資料を作成 事後：分担にそって作業	グループワーク 90分
22	プレゼンテーションⅥ 発表 発表グループ毎にプレゼンテーションをし、互いに改善点を話し合います	事前：プレゼンのシミュレーション 事後：改善点をまとめる	発表 60分・ディスカッション 30分
23	アカデミックライティングの基礎Ⅰ 引用文献のつけかたなど、アカデミックライティングの基礎を理解します	事前：配付資料を読む 事後：配付問題を解く	講義 70分・グループワーク 20分
24	アカデミックライティングの基礎Ⅱ 実際に、いくつかの資料をつかってミニレポートを作成します	事前：前回の復習 事後：書いたレポートを確認	講義 20分・グループワーク 70分
25	アカデミックライティングの基礎Ⅲ 第13回で各自が作成したミニレポートをふりかえり、自分の成長と課題を確認します	事前：ミニレポートを読む 事後：成長と課題をまとめる	講義 30分・発表 20分・グループワーク 40分
26	プレゼンテーションⅦ テーマ設定 テーマ設定グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担します	事前：テーマ案を考える 事後：分担にそって作業	講義 10分・グループワーク 80分
27	プレゼンテーションⅧ 準備 準備グループ毎に素材をもちより、流れをきめ、補足する資料等を検討します	事前：持ち寄る資料を作成 事後：分担にそって作業	グループワーク 90分
28	プレゼンテーションⅨ 発表 発表グループ毎にプレゼンテーションをし、批評します	事前：プレゼンのシミュレーション 事後：改善点をまとめる	発表 60分・ディスカッション 30分
29	卒論テーマの検討Ⅱ 各自自分のテーマについて話し合い、課題をまとめます	事前：テーマ案をまとめる 事後：授業内容をまとめる	発表 60分・講義 30分
30	まとめ 今年度の活動を総括し、各自自分の成長を理解し、次年度の課題を設定します	事前：今年度の自分の活動をふりかえっておく 事後：総括と課題をまとめる	講義 10分・グループワーク 80分
教本： 適宜資料を配付します		参考文献： 授業中に指示します	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（60%）、プレゼンテーション・レポート等（40%）			
学生へのアドバイス： ゼミは大学生活の集大成ともいえるものです。楽しく仲良く授業をすすめるながら、各自問題意識を持って着実に成長しましょう			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担当教員	三枝 昌幸								
履修条件	前提科目	憲法、憲法学Ⅰ、憲法学Ⅱ							
	その他	他の法律系科目も履修することが望ましい。							
授業概要： 憲法に関する基本的な問題について、判例および学説を検討する。授業は発表と討論により行う。発表者は事前に決めたテーマについて資料を作成し、口頭で発表する。発表後は履修者全員で討論する。発表者以外の学生もテーマについて事前に学習し、自身の見解を整理したうえで討論に参加する。なお、発表テーマは日本で生じた憲法問題から選択することが望ましいが、履修者の関心に応じて、比較憲法や憲法思想などのテーマも認める。									
授業目標： 憲法の基礎知識を習得し、具体的な憲法問題について自身の見解を説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：前期の目標設定			講義60分、演習30分	
2	法律情報の調べ方				事前：配布資料を読む 事後：配布資料の再読			講義60分、演習30分	
3	判例の読み方① 最高裁判所の判例				事前：指定の判例を読む 事後：判例の再読			講義60分、演習30分	
4	判例の読み方② 下級裁判所の裁判例				事前：指定の裁判例を読む 事後：裁判例の再読			講義60分、演習30分	
5～14	発表と討論				事前：調査・準備 事後：発表の整理			演習90分	
15	まとめ				事前：前期の反省 事後：後期の目標設定			講義30分、演習60分	
16	後期授業計画の確認				事前：テーマを考える 事後：テーマの決定			講義30分、演習60分	
17～29	発表と討論				事前：調査・準備 事後：発表の整理			演習90分	
30	まとめ				事前：今年度の反省 事後：来年度の目標設定			講義30分、演習60分	
教本： 使用しない。					参考文献： 憲法判例百選Ⅰ〔第8版〕、有斐閣、¥2,750 憲法判例百選Ⅱ〔第8版〕、有斐閣、¥2,750				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（70%）、レポート等（30%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃から憲法や政治に関する情報を収集すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 演習Ⅰでは、演習Ⅱで卒業論文を作成することを踏まえ、実証的研究方法を学ぶ。研究の進捗状況はゼミノートに記し、指導教員と共有しながら研究を進める。逐次先輩の研究発表会に参加し、4年次の展望を持てるようにする。									
授業目標： 卒業論文の研究計画を立て、予備調査・実験をする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：自分の興味関心の検討 事後：他者の興味関心の参照		演習	
2・3	心理学研究計画を立てるとはどのようなことか：先輩の研究計画発表会に参加する					事前：研究計画をイメージする 事後：今後の展望を持つ		演習	
4	研究倫理					事前：研究倫理について調べる 事後：研究倫理を理解する		演習	
5	自分の興味関心を探索する					事前：自分の興味関心の検討 事後：他者の興味関心の参照		演習	
6	現代のホットな話題を探索する					事前：現代の話題を探索する 事後：さらに考えを深める		演習	
7～9	興味のある論文を検索し、まとめる					事前：自分の興味関心の再考 事後：検索論文をまとめる		演習	
10～13	検索した論文の内容を発表する					事前：発表資料の作成 事後：研究テーマを考える		演習	
14・15	卒業研究を実施するとはどのようなことか：先輩の卒業研究中間発表会①に参加する					事前：研究テーマを考える 事後：今後の展望を持つ		演習	
16	研究のアイデアを絞り込む					事前：自分の興味関心の再考 事後：研究テーマの絞り込み		演習	
17	リサーチクエスチョンを立てる					事前：RQを考える 事後：RQの修正		演習	
18	研究方法を考える					事前：研究方法を考える 事後：研究方法の修正		演習	
19	研究方法のお手本論文を見つける					事前：研究方法をまとめる 事後：検索論文の整理		演習	
20	重要な先行研究を検索し、整理する					事前：RQ関連論文の検索 事後：検索論文の整理		演習	
21～23	研究計画を立てる					事前：研究計画を考える 事後：研究計画の修正		演習	
24・25	卒業研究結果をまとめるとはどのようなことか：先輩の卒業研究中間発表会②に参加する					事前：研究方法を考える 事後：今後の展望を持つ		演習	
26～28	予備調査・実験の実施					事前：予備調査・実験の準備 事後：予備調査・実験結果のまとめ		演習	
29	研究計画の吟味					事前：予備調査・実験結果のまとめ 事後：研究計画の修正		演習	
30	卒業論文を作成するとはどのようなことか：先輩の卒業論文発表会に参加する					事前：卒業論文をイメージする 事後：今後の展望を持つ		演習	
教本： 『心理学の卒業研究ワークブック 発想から論文完成までの10ステージ』小塩真司・宅香菜子 金子書房						参考文献： 適宜指示する。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 積極的にゼミに参加し、主体的に研究を進めましょう。									
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	横手 拓治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ①編集・広告／編集制作物の研究、広告技法の分析。 ②文芸表現／作品・作家研究。ジャンル分析。創作技法。 ③コンテンツの調査研究／漫画、映像系（アニメなど）、演劇、デジタルコンテンツ（ゲームなど）、デザインを対象にする。→「クールジャパン」といわれ、いま、世界に向かって価値を発信している日本産カルチャーを幅広く取りあげる。									
授業目標： ①～③に関して、知見を増やし技量を高めていくことで、さらなる調査研究力・表現力を身につける。 ◆学生の関心に合わせて、扱うテーマを選択していきます。 ◆論文指導は個々の学生に対して行います。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション／ゼミのガイダンスと30回の構成説明					事前：自身が扱う対象を整理 事後：授業内容の確認		説明と講義45分 質疑応答45分	
2	学生は、それぞれが追求していく研究・制作テーマについて、当初段階での方針・構想等を説明する。教員との意見交換。					事前：自身が扱う対象を整理 事後：授業内容の確認		学生発表45分 指導対応45分	
3	第2回同。個別面談を交える場合がある。					事前：自身が扱う対象を整理 事後：授業内容の確認		指導対応45分 講義・説明等45分	
4	学生の方向性をふまえた教員による講義。上記授業概要①～③から適切なものを選択して実施。〔第1回〕					事前：自身が扱う対象を整理 事後：授業内容の確認		講義60分 応答30分	
5	学生は、各自の追求テーマについて知識を増やし、必要に応じて軌道修正等にも取り組む。教員は必要な助言や指導を行う。					事前：テーマの精査 事後：授業内容の確認		講義・説明等45分 指導対応45分	
6	第5回同。					事前：テーマの精査 事後：授業内容の確認		講義・説明等45分 指導対応45分	
7	第5回同。					事前：テーマの精査 事後：授業内容の確認		講義・説明等45分 指導対応45分	
8	第5回同。					事前：テーマの精査 事後：授業内容の確認		講義・説明等45分 指導対応45分	
9	学生の方向性をふまえた教員による講義。上記授業概要①～③から適切なものを選択して実施。〔第2回〕					事前：取り組む対象の再検討 事後：授業内容の確認		講義60分 応答30分	
10	〔調整回〕調査活動や映像鑑賞などを実施する場合がある。					事前：取り組む対象の再検討 事後：授業内容の確認		指導対応45分 講義・説明等45分	
11	学生は、各自の課題に合わせ、必要となる文献・資料等につきリサーチ活動に取り組む。教員は必要な助言や指導を行う。					事前：文献・データの調査 事後：文献・データの再調査		指導対応45分 講義・説明等45分	
12	第11回同。					事前：文献・データの調査 事後：文献・データの再調査		指導対応45分 講義・説明等45分	
13	第11回同。					事前：文献・データの調査 事後：文献・データの再調査		指導対応45分 講義・説明等45分	
14	第11回同。					事前：文献・データの調査 事後：文献・データの再調査		指導対応45分 講義・説明等45分	
15	追求テーマの中間プレゼンテーション(学生)+教員の講評等。教員による、夏季休暇中の研究進捗に関する指導。					事前：発表準備 事後：前期全体の復習		学生発表45分 指導対応45分	
16	後期開始にさいしてのガイダンス					事前：研究・制作内容の精査 事後：授業内容の確認		説明と講義45分 質疑応答45分	
17	研究の学生は、教員から助言・指導を受けながら、対象テーマをアウトラインに落とし込む。制作の学生は試作を実施する。					事前：研究・制作内容の精査 事後：研究・制作の推進		指導対応60分 講義・説明等30分	

18	第17回同。	事前：研究・制作内容の精査 事後：研究・制作の推進	指導対応60分 講義・説明等30分
19	第17回同。	事前：研究・制作内容の精査 事後：研究・制作の推進	指導対応60分 講義・説明等30分
20	第17回同。	事前：研究・制作内容の精査 事後：研究・制作の推進	指導対応60分 講義・説明等30分
21	学生の方向性をふまえた教員による講義。上記授業概要①～③から適切なものを選択して実施。〔第3回〕	事前：研究・制作内容の精査 事後：授業内容の確認	講義60分 応答30分
22	研究の学生は、アウトラインをもとに小論文作成を実施する。制作の学生は、作品の完成に取り組む。教員は内容指導。	事前：文章化準備 事後：文章化を進める	指導対応60分 講義・説明等30分
23	第22回同。	事前：文章化成果の点検 事後：文章化を進める	指導対応60分 講義・説明等30分
24	第22回同。	事前：文章化成果の点検 事後：文章化を進める	指導対応60分 講義・説明等30分
25	第22回同。	事前：文章化成果の点検 事後：文章化を進める	指導対応60分 講義・説明等30分
26	年末プレゼンテーション(学生)+教員の講評等。	事前：発表準備 事後：復習と自作の再点検	学生発表45分 指導対応45分
27	〔調整回〕調査活動や映像鑑賞などを実施する場合がある。	事前：提出物 brushup (改善) 事後：文章の完成度を高める	指導対応60分 講義・説明等30分
28	小論文・制作物(作品)の最終確認。教員は個別に指導する。	事前：提出物 brushup (改善) 事後：文章の完成度を高める	指導対応60分 講義・説明等30分
29	第28回同。	事前：提出物 brushup (改善) 事後：文章の完成度を高める	指導対応60分 講義・説明等30分
30	小論文・制作物の提出(学生)+教員による全体のまとめ。	事前：提出物の最終確認 事後：全体の復習	指導対応45分 講義等45分
<p>教本：なし。必要な資料等があれば、学習管理ツールを通じた送付 (Google Classroom)、ないし紙版のコピー配布を行う。</p> <p>参考文献：必要に応じて個別に提示し、読解のコツ・使用法につき助言を行う。</p>			
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況 (30%)、発表状況 (30%)、提出物 (40%) で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 研究・制作活動は、主体的な問題意識、適切なテーマを発見するまでの十分なプロセス、点検・精査、そして洗練された表現力を伴うことで、精度が上がっていくものである。学生は授業時以外においても、これらの涵養をめざし積極的な取り組みの継続に努めること。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (SeminarⅡ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>日本の歴史と文化について理解を深めることは、自分自身を見つめなおすことにつながります。各自、興味のある研究テーマを選択し、発表を繰り返しながら、卒業論文の作成に取り組みます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>「演習Ⅰ」で理解を深めた日本の歴史と文化の知識、研究方法の基礎をいかしながら、卒業論文（2万字以上）、卒業レポート（1万字以上）を作成します。</p> <p>また、「演習Ⅰ」と同様に、適宜、合宿や課外学習を行います。先生やゼミの仲間との交流を通して、社会人に必要不可欠なコミュニケーション能力を習得してください。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：テーマを考える		講義 90分	
2	卒業論文・レポート① テーマの作成					事前：テーマの作成 事後：テーマの作成		講義 60分 個別指導 30分	
3	卒業論文・レポート② テーマの作成					事前：テーマの作成 事後：テーマの作成		個別指導 90分	
4	卒業論文・レポート① 資料の収集と分析					事前：テーマの作成 事後：資料の収集と分析		講義 60分 個別指導 30分	
5	卒業論文・レポート② 資料の収集と分析					事前：資料の収集と分析 事後：資料の収集と分析		個別指導 90分	
6	卒業論文・レポート③ 資料の収集と分析					事前：資料の収集と分析 事後：資料の収集と分析		個別指導 90分	
7	卒業論文・レポート④ 資料の収集と分析					事前：資料の収集と分析 事後：資料の収集と分析		個別指導 90分	
8	卒業論文・レポート⑤ 資料の収集と分析					事前：資料の収集と分析 事後：資料の収集と分析		個別指導 90分	
9	卒業論文・レポート① 構成と内容					事前：構成と内容 事後：構成と内容		講義 60分 個別指導 30分	
10	卒業論文・レポート② 構成と内容					事前：構成と内容 事後：構成と内容		個別指導 90分	
11	卒業論文・レポート③ 構成と内容					事前：構成と内容 事後：構成と内容		個別指導 90分	
12	歴史散策① テーマと企画					事前：テーマと企画 事後：テーマと企画		講義 30分 グループワーク 60分	
13	歴史散策② 課外学習準備					事前：課外学習準備 事後：課外学習準備		グループワーク 90分	
14	歴史散策③ 課外学習					事前：課外学習準備 事後：なし		グループワーク 90分	
15	前期まとめ 夏休みの卒論添削について					事前：論文進捗状況の報告 事後：卒論・レポートの作成		講義 30分 個別指導 60分	

16	卒業論文・レポート① 本論	事前：本論 事後：本論	講義 30分 個別指導 60分
17	卒業論文・レポート② 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
18	卒業論文・レポート③ 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
19	卒業論文・レポート④ 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
20	卒業論文・レポート⑤ 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
21	卒業論文・レポート⑥ 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
22	卒業論文・レポート① 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
23	卒業論文・レポート② 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
24	卒業論文・レポート③ 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
25	卒業論文・レポート④ 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
26	卒業論文・レポート⑤ 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
27	卒業論文・レポート⑥ 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
28	歴史散策 課外学習準備	事前：テーマと企画 事後：課外学習準備	グループワーク 90分
29	課外学習	事前：課外学習準備 事後：なし	グループワーク 90分
30	後期のまとめ	事前：卒論・レポートの総括 事後：卒業後の取り組み	講義 60分 ディスカッション 30分
<p>教本： 資料を配布するので、教科書は指定しません。</p>		<p>参考文献： 適宜、指示します。</p>	
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40％） 授業中の課題、定期試験（60％）等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 文字だけで判断するのではなく、歴史の本質を理解するよう心がけてください。 自分も相手も大切に表現方法を学んでください。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回の授業で教えます。</p>			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習	
授業科目(英文)	演習Ⅱ (SeminarⅡ)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	上地 一郎									
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法／人的担保法／物的担保法など履修していることが望ましい。								
	その他	多領域の法律科目も履修してもらいたい。								
<p>授業概要：</p> <p>民法財産法は、市民社会の取引の基本法として、私たちの生活の大半をカバーしています。ゼミでは、民法財産法の主要な論点や最近の改正をとりあげ、専門書、論文、判例等を検討することで、民法財産法の基礎知識の修得を図り、法的思考を深めることを目的としています。</p> <p>そのため、参加者には、まず自らの課題探しに始まり、設定した課題について法的な論点の抽出、学説や判例の分析をもとに発表を行ってもらいます。そしてゼミ生の間での積極的なディスカッションを通して自らの課題に対してより深く接近してもらいたいと思います。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>民法財産法の基本的な知識を習得し、その法的な論点はどのようなものかについて説明し、自らの見解と解決方法を説明できるようになること。専門演習の成果として、卒業レポートもしくは卒業論文を完成させること。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション 演習の進行について説明する					事前：なし 事後：配布資料の見直し		演習		
2・3	各メンバーの今年度の研究計画を発表する					事前：各自報告の準備 事後：報告の見直し		演習		
4	前期役割分担と共通テーマについて話し合う					事前：テーマを考える 事後：テーマを考える		演習		
5～12	分担者の報告とディスカッションをおこなう					事前：各自報告の準備 事後：報告の見直し		演習		
13・14	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前：報告の準備 事後：報告の見直し		演習		
15	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前：報告の準備 事後：報告の見直し		演習		
16・17	各メンバーの夏期休暇中の成果報告をおこなう					事前：テーマを考える 事後：テーマを考える		演習		
18	後期役割分担と共通テーマについて話し合う					事前：各自報告の準備 事後：報告の見直し		演習		
19～27	分担者の報告とディスカッションをおこなう					事前：報告の準備 事後：報告の見直し		演習		
28・29	各メンバーの研究報告とディスカッションをおこなう					事前：報告の準備 事後：報告の見直し		演習		
30	まとめふりかえり					事前：1年間を振り返る 事後：次年度に向けた改善		演習		
<p>教本：</p> <p>ポケット六法等</p>					<p>参考文献：</p> <p>民法判例百選Ⅰ〔第9版〕（有斐閣）¥2,420 税込  民法判例百選Ⅱ〔第9版〕（有斐閣）¥2,420 税込  『リーガル・リサーチ&amp;レポート』（有斐閣）第2版 ¥1,813 税込</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>大学4年間は長いようでいて、あっという間に過ぎていきますので、在学中にいろいろなことに取り組んでもらいたいと思います。ゼミもその一環です。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	演 習 II (Seminar II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	演 習 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観 光 関 連 の 企 業 ・ 産 業 研 究 を し た 上 で 、 課 題 を 見 つ け 出 し 、 そ の 解 決 策 を 考 え 出 し 、 プ レ ゼ ン を す る 訓 練 を す る 。									
授 業 目 標 : 1. 得 意 分 野 を プ レ ゼ ン で き る 2. 政 治 ・ 経 済 ・ 文 化 ・ 産 業 に 関 心 を 持 つ よ う に な る 3. 課 題 を み つ け 、 解 決 す る こ と が で き る									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
2 ~ 5	企 業 ・ 産 業 研 究 と デ ィ ス カ ッ シ ョ ン					事 前 : 時 事 問 題 研 究 事 後 : 時 事 問 題 理 解		講 義 90 分 ま た は 、 演 習 90 分	
6 ~ 24	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン と デ ィ ス カ ッ シ ョ ン					事 前 : 専 門 分 野 研 究 事 後 : 専 門 分 野 研 究		講 義 90 分 ま た は 、 演 習 90 分	
25 ~ 30	レ ポ ー ト 研 究 と デ ィ ス カ ッ シ ョ ン					事 前 : 専 門 分 野 研 究 事 後 : 専 門 分 野 研 究		講 義 90 分 ま た は 、 演 習 90 分	
教 本 : 適 宜 プ リ ン ト を 配 布 す る 。					参 考 文 献 : 高 橋 秀 夫 著 「ク ラ ブ ツ ー リ ズ ム の 秘 密 」 毎 日 新 聞 社				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (80%) レ ポ ー ト 等 (20%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 社 会 の 動 き を 自 分 で 考 え 、 議 論 で き る よ う に な ろ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰ							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>卒業論文の指導を主たる授業内容とする。研究テーマを確定し、文献などの資料・データの収集、調査を進める。また研究論文の書き方の基本を学び、推敲の仕方をも学習する。各回の研究発表では、自身のテーマに関するプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して、自身のテーマに関する見識を深め、論文としてまとめていく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>演習Ⅱでは、ゼミ生は、子ども学・保育学・教育学に関する研究を進めるために、知識や能力の基礎を固め、さらに発展させることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：資料の再読		演習 90分	
2	研究発表					事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討		演習 90分	
3	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
4	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
5	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
6	研究発表					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
7	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
8	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
9	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
10	研究発表					事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討		演習 90分	
11	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
12	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
13	文献講読					事前：資料の読解 事後：レジュメ作成		演習 90分	
14	研究発表					事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討		演習 90分	
15	卒業論文のアウトライン作成					事前：アウトライン作成 事後：反省点の検討		演習 90分	

16	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
17	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
18	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
19	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
20	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
21	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
22	資料の読解	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
23	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
24	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
25	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
26	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
27	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
28	論文の推敲	事前：論文の読み直し 事後：論文の読み直し	演習 90分
29	論文の推敲	事前：論文の読み直し 事後：論文の読み直し	演習 90分
30	論文の校正・校閲	事前：論文の読み直し 事後：なし	演習 90分
<p>教本：『最新版 学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著（講談社） 参考文献：授業内で適宜指示する。</p>			
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 授業準備をしっかりとってください。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 自らの選んだテーマの理解を深め、論文を作成します。									
授業目標： 卒業論文として完成することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス				事前：シラバス、計画を確認 事後：配付資料を精読			説明 60分、質疑応答 30分	
2～14	報告発表				事前：報告発表準備 事後：質疑討議の整理			報告 30分、質疑討議 60分	
15	夏休みの研究計画を話し合う				事前：論文進捗状況をチェック、計画調整 事後：夏休みの計画作成			報告、質疑応答、助言 90分	
16	論文作成の進捗状況の確認				事前：できたこと、できなかったことの確認 事後：できなかったことの対策作成			報告、質疑応答、助言 90分	
17～25	論文の発表				事前：発表の準備 事後：質疑応答の整理			発表 30分、質疑応答 60分	
26～30	論文の完成				事前：内容・形式のチェック 事後：執筆・推敲			発表 30分、質疑応答 60分	
教本： 山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、¥2,400+税					参考文献： 適宜、紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（40%）、卒業論文（60%）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： わくわくする課題を見つけ、根気よく着実に解決に向けて力を注いでください。締め切りを考え、時間配分にも注意してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (SeminarⅡ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ、管理会計論							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>今年度は、各自が関心を持った企業を対象にして、その企業の財務諸表を分析する。最終的に論文・レポートにまとめていく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>管理会計の研究 各企業の財務諸表を分析して、基準値や、他社との比較分析を行い、論文、レポートにまとめる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	財務諸表の入手					事前：なし 事後：なし		演習	
2	財表分析のⅠ（収益性1）					事前：指定科目の予習 事後：なし		演習	
3	財表分析のⅡ（収益性2）					事前：指定科目の予習 事後：なし		演習	
4	財表分析のⅢ（収益性3）					事前：指定科目の予習 事後：なし		演習	
5	財表分析のⅣ（安全性1）					事前：指定科目の予習 事後：なし		演習	
6	財表分析のⅤ（安全性2）					事前：論文の作成法概略 事後：なし		演習	
7	財表分析のⅥ（安全性3）					事前：論文の作成法概略 事後：なし		演習	
8	財表分析のⅦ（生産性1）					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
9	財表分析のⅧ（生産性2）					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
10	財表分析のⅨ（生産性3）					事前：管理会計の予習 事後：レポート作成		演習	
11	財表分析のⅩ（総合評価1）					事前：管理会計の予習 事後：レポート作成		演習	
12	財表分析のⅪ（総合評価2）					事前：管理会計の予習 事後：論文の作成		演習	
13	財表分析のⅫ（総合評価3）					事前：管理会計の予習 事後：論文の作成		演習	
14	レポート・論文の書き方Ⅰ					事前：管理会計の予習 事後：論文の作成		演習	
15	レポート・論文の書き方Ⅱ					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	

16	レポート・論文の書き方Ⅲ	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
17	レポート・論文の書き方Ⅳ	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
18	レポート・論文の書き方Ⅴ	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
19	レポート・論文の書き方Ⅵ	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
20	各自の課題を発見することの指導 1	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
21	各自の課題を発見することの指導 2	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
22	各自の課題を発見することの指導 3	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
23	論文作成の指導 1	事前：収集資料のまとめ 1 事後：収集資料のまとめ 1	演習
24	論文作成の指導 2	事前：収集資料のまとめ 2 事後：収集資料のまとめ 2	演習
25	論文作成の指導 3	事前：収集資料のまとめ 3 事後：収集資料のまとめ 3	演習
26	論文作成の指導 4	事前：収集資料のまとめ 4 事後：収集資料のまとめ 4	演習
27	論文作成の指導 5	事前：収集資料のまとめ 5 事後：収集資料のまとめ 5	演習
28	論文作成の指導 6	事前：収集資料のまとめ 6 事後：収集資料のまとめ 6	演習
29	論文作成の指導 7	事前：収集資料のまとめ 7 事後：収集資料のまとめ 7	演習
30	論文作成の指導 8	事前：収集資料のまとめ 8 事後：収集資料のまとめ 8	演習
教本： 適宜指示する。		参考文献： なし	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 夏休みの合宿でまとめを発表してもらう。また、適宜、レポートを要求して総合評価を行う。			
学生へのアドバイス： 学ぶことと考えることの習慣をつけたい。実際の企業等の見学などを考慮し、楽しく学ぶことを考えている。			
オフィスアワー： 授業の第 1 回で指示する。			

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	演 習 II (Seminar II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	演 習 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ゼミ生が設定したテーマに関する文献、資料、統計を収集し、サーベイを行い、研究課題を絞り込む。論文全体の骨子を考え、卒業論文の内容を発表する。									
授 業 目 標 : 演習 I で習得した理論、実証的分析方法と論文の書き方をベースにして、ゼミ生の自由な着想で情報セキュリティ社会の抱えるテーマを見つけ出し、それに沿った卒業論文が書けるように、3年次引き継いで指導する。卒業論文として、情報社会性のある卒論を書くことが到達目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、及び情報社会、情報セキュリティの概要について説明する。					事前：シラバスを読む 事後：配布資料を読む		講義 40分、ディスカッション 50分	
2	研究テーマ設定のための文献・資料・統計の収集とサーベイを行う。					事前：研究テーマの文献を調べる 事後：研究テーマの文献・資料を収集する		講義 40分、ディスカッション 50分	
3・4	研究テーマの選定をし、研究テーマを報告する。					事前：研究テーマを用意する 事後：研究テーマを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	関連文献の収集と文献リストを作成する。論文作成スケジュールの作成と管理を行う。					事前：論文関連文献を収集する 事後：文献リストを纏める		講義 40分、ディスカッション 50分	
6	卒業論文の予備調査の実施を行う。					事前：卒論の予備調査を行う 事後：卒論の予備調査を纏める		講義 40分、ディスカッション 50分	
7・8	卒業論文目次の作成、および報告をする。					事前：卒論目次を作成する 事後：卒論目次を纏める		講義 10分、ディスカッション 30分、発表 50分	
9・10	卒業論文の進捗状況を発表しながら、討論会を行う。本調査のため、資料を収集し、纏める。					事前：卒論の資料を用意する 事後：卒論の資料を纏める		講義 10分、ディスカッション 40分、発表 40分	
11・12	論文執筆（データ・グラフ整理、作成、および文献資料の整理など）を行う。					事前：卒論資料を整理する 事後：内容を纏める		講義 40分、ディスカッション 50分	
13	論文の進捗状況を発表しながら、討論会を行う。					事前：卒論進捗状況の発表準備 事後：内容を纏める		講義 10分、ディスカッション 40分、発表 40分	
14・15	卒業論文執筆、論文作成の中間報告を行う。各自卒論の方針の確定と夏休みの作業の準備					事前：論文作成の中間報告準備 事後：内容を纏める		講義 10分、ディスカッション 40分、発表 40分	
16・17	夏休みの成果を踏まえた卒論進捗状況を発表する。					事前：卒論進捗状況の発表準備 事後：内容を纏める		講義 10分、ディスカッション 40分、発表 40分	
18~22	前期の成果の確認と評価、問題意識を再確認する。データ、文献資料の収集と整理する。					事前：卒論資料を整理する 事後：内容を纏める		講義 40分、ディスカッション 50分	
23・24	卒論の進捗状況の発表しながら、討論会を行う。プレゼンテーションの技法を習得する。					事前：卒論進捗状況の発表準備 事後：卒業論文を執筆する		講義 10分、ディスカッション 40分、発表 40分	
25~30	各自、卒業論文の作業を行う。卒業論文の作成と中間発表を行う。卒業論文の最終報告をする卒論の完成と発表					事前：発表の準備をする 事後：卒業論文を提出する		講義 10分、ディスカッション 40分、発表 40分	
教本： (授業内で指示)					参考文献： (授業内で指示)				
成績評価の方法、評価基準： 論文提出 (50%)、論文中間報告 (20%)、卒業論文の取り組み姿勢 (30%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回課題点を明らかにして授業に臨んで下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 卒論研究を行うことを原則とする。各人の研究テーマを決め、研究活動計画を策定しスケジュールに沿って研究講義・活動を行う。									
授業目標： 1. 観光地域振興の実践的能力の育成。 2. 提案・まとめ・発表能力の育成及び社会人に向けての自立のための意識向上。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	演習活動の確認：年間テーマ・スケジュール案の検討を確認する。					事前：演習内容の理解 事後：年間スケジュールの調整		講義60分、 ディスカッション30分	
2～4	研究目標の設定：自身の継続もしくは新たな研究活動の課題の整理及び研究手順の検討を行う。					各回修正・調整 事前：年間テーマ、卒論(レポート) 内容の検討 事後：年間テーマ、卒論(レポート) 内容のまとめ		講義60分、 ディスカッション30分	
5～14	資料文献調査など、前期研究活動のまとめを行う。地域活動がある場合は実践活動により学修する。					事前：まとめ作業を行う 事後：まとめ作業を行う		講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり	
15	前学期まとめを行う。					事前：中間報告書の作成 事後：後学期に向けた作業検討を行う		講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり	
16・17	課題の整理：前期作業を踏まえて、研究課題、研究方法等の修正及び後学期作業スケジュールの確立を行う。					事前：研究テーマのまとめ 事後：研究テーマのまとめ		講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり	
18～24	卒論・レポートなどの研究成果のまとめを行う。 現地調査のまとめ、資料文献調査などを行う。					事前：まとめ作業を行う 事後：まとめ作業を行う		講義30分、自主作業60分	
25・26	卒論・レポートなど各人のテーマ発表、意見交換を行う。					事前：まとめ作業を行う 事後：意見交換内容からまとめ作業実施		講義30分、自主作業60分	
27～29	卒論・レポートなどのまとめ作業：地域活動・資料文献調査・意見交換等を踏まえ年間テーマのまとめ作業を行う。					各回：まとめ内容の完成 事後：まとめ作業を行う		講義30分、自主作業60分	
30	卒論・レポートなどの内容を検証する。					事前：まとめ内容の完成 事後：内容の反省		講義30分、自主作業60分	
教本： なし					参考文献： テーマに応じて指示				
成績評価の方法、評価基準： 卒論テーマの目標が達成できたかを評価する。テーマにあった卒論を行おうとするものは演習Ⅱからでも受け入れる。									
学生へのアドバイス： 探求心を持って日々の研究活動を自主的に勉強する意欲を持つこと。段階的に目標の達成を図ること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	演 習 II (Seminar II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	佐 久 間 信 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	演 習 I を 履 修 し て い る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 各 自 が 卒 論 テ ー マ を 決 め 、 卒 論 の 内 容 に つ い て の 発 表 を 行 う 。 担 当 者 が プ レ ゼ ン を 行 い 、 質 疑 応 答 に よ り 内 容 を 深 め て い く 。									
授 業 目 標 : 独 自 の 研 究 テ ー マ に つ い て 、 体 系 的 に 説 明 す る こ と が で き る 。 討 論 に お い て 、 自 ら の 主 張 を 論 理 的 に 説 明 す る こ と が で き る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方 、 成 績 評 価 の 仕 方 、 レ ジ ム 作 成 方 法 な ど					事 前 : な し 事 後 : 配 布 資 料 の 確 認		講 義	
2	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
3	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
4	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
5	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
6	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
7	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
8	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
9	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
10	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
11	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
12	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
13	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
14	各 自 の 卒 論 テ ー マ に つ い て の 報 告 と 討 論					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	
15	各 自 の 卒 論 の テ ー マ と 内 容 の 再 検 討					事 前 : レ ジ ム の 作 成 事 後 : 内 容 の 考 察 と 修 正		プ レ ゼ ン と 討 論	

16	各自の卒論の章立ての発表	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
17	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
18	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
19	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
20	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
21	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
22	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
23	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
24	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
25	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
26	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
27	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
28	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
29	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
30	卒論提出	事前：印刷製本等 事後：なし	
教本： なし		参考文献： なし	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、プレゼンの内容等（30%）、卒論の評価（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 卒論提出が終わると社会人です。ゼミでの学習を通して社会人としての基本的な能力を身につけましょう。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習	
授業科目(英文)	演習Ⅱ (SeminarⅡ)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	清水 健太									
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰの単位を修得していること。								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>経営学の諸問題の中から、各学生の興味・関心のある内容について学習し、最終的には研究成果を外部の研究発表大会にて発表することを目的とする。また、上記の目標を達成した内容をベースに演習Ⅱにおける卒業論文を執筆する基礎力を身につけることも目的とする。</p>										
<p>授業目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学の興味・関心のある領域に関する幅広い知識を身につける。</li> <li>・経営学の学習を通して、プレゼン方法、情報収集能力、コミュニケーション能力といった就職活動で求められる内容についての能力を養う。</li> </ul> <p>卒業論文の研究テーマを決める。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
2	環境変化と多角化経営					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分		
3	事業変革と革新					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分		
4	外部環境への適応と新事業創造					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分		
5	ミッションとビジョン					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分		
6	事業領域とコアコンピタンス経営					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分		
7	課題図書① 要約の作成					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク 90分		
8	課題図書② パワーポイント資料の作成					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク 90分		
9	課題図書③ プレゼンテーションの方法					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク 90分		
10	論理的思考や経営学における考え方					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク 90分		
11	グループ発表①					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク 90分		
12	グループ発表②					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク 90分		
13	グループ発表③					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク 90分		
14	PPM分析					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分		
15	金のなる木の衰退と事業の撤退					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義 90分		

16	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング①	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
17	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング②	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
18	オープン・イノベーションと大企業の新事業創造	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
19	企業の資料収集方法	事前：なし 事後：情報収集方法の確認	講義 90分
20	グループ発表④	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
21	グループ発表⑤	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
22	グループ発表⑥	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
23	プレゼン大会への準備①	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分
24	プレゼン大会への準備②	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分
25	プレゼン大会への準備③	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分
26	卒業論文研究テーマの発表①	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分
27	卒業論文研究テーマの発表②	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分
28	卒業論文研究テーマの発表③	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分
29	1年間の振り返り	事前：なし 事後：なし	グループワーク 90分
30	演習のまとめ	事前：なし 事後：なし	グループワーク 90分
<p>教本： 佐久間信夫編(2024)『入門企業論』法律文化社 初回に学生の学びたい内容などを確認し、決定する（特になければ経営戦略論をベースに検討する）。</p>		<p>参考文献： 初回に学生の学びたい内容などを確認し、決定する。</p>	
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 原則、外部の研究発表大会に出場することを求めます。相応の参加意欲がある学生を望みます。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白石 佳和								
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>卒業論文のテーマを決定し、計画を立て、論文を執筆します。テーマは、日本文化や比較文化、日本語教育など日本文化と異文化に関するもの全般を扱います。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>卒業論文（2万字以上）または卒業レポート（1万字以上）の完成を目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスを読む 事後：振り返りとまとめ		講義60分、グループワーク20分、発表10分	
2・3	テーマと問いを発表する。					事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		講義30分、グループワーク30分、議論30分	
4	研究計画を立てる。					事前：計画の準備 事後：振り返りとまとめ		講義30分、グループワーク30分、議論30分	
5～8	資料調査を行い、アウトラインを作成する。					事前：アウトライン推敲 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分	
9	第1回中間発表					事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表準備60分、発表30分	
10～14	構成と内容を検討する。					事前：論文執筆 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分	
15	第2回中間発表。					事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		議論60分、まとめ30分	
16	夏休みの執筆進行状況の発表。					事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分	
17～21	論文の主要部分の執筆。					事前：論文執筆 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分	
22～24	中間発表とディスカッション。					事前：発表準備 事後：論文のリライト		講義30分、個人指導60分	
25～29	論文執筆。					事前：引用文献の確認 事後：指導箇所のリライト		発表30分、議論60分	
30	1年全体を振り返りまとめる。					事前：論文のリライト 事後：論文の完成		振り返り60分、まとめ30分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 授業で紹介する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（20%）、提出物・発表（40%）、論文（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>お互い刺激し合いながら楽しく授業に参加しましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	ビジネス法Ⅰ・Ⅱ、企業組織法Ⅰ・Ⅱ (同時履修も含め、好ましい。)、演習Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 企業に関する法について研究を行います。中心となるのは、商法と会社法です。民法、経済法の話にも及びます。今日の経済社会の中で、企業はどうあるべきか、また、どう経営されていくべきか等、法的側面から考察していきます。									
授業目標： 企業法としての商法・会社法について深く考察し、卒業論文につなげていく事を目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。企業法の特徴を示し、企業法を学んでいくうえで得心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、企業法分野についての事前のチェックをする。企業法とは何かについて考える。			講義30分、 質疑応答60分。		
2	事業を行うための法形態 (企業形態) について概観し、その創意と相違について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：事業を行うための法形態 (企業形態)、その課題と活用について確認をする。 事後：事業を行うための法形態 (企業形態)、その課題と活用について確認し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
3	会社の権利能力およびその制限について概観し、会社の権利能力について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：会社の権利能力およびその制限、その課題と対策について確認する。 事後：会社の権利能力およびその制限、その課題と対策について確認し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
4	権利能力なき社団について概観し、会社の権利能力について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：権利能力なき社団について、その課題と対策について確認する。 事後：権利能力なき社団について、その課題と対策について確認し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
5	会社の使用人と代理商について概観し、会社の人的施設 (事業の補助システム) について深く理解し、会社運営、課題と活用について検討する。			事前：会社の人的施設 (事業の補助システム) を確認し、会社運営、課題と活用について考察する。 事後：会社の人的施設 (事業の補助システム) を確認し、会社運営、課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
6	会社の事業譲渡について概観し、事業譲渡について深く理解し、その課題と活用を検討する。			事前：事業譲渡について確認し、その課題と活用を考察する。 事後：事業譲渡について確認し、その課題と活用を考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
7	株式会社の特質について概観し、株式会社の特質について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：株式会社の特質について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：株式会社の特質について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
8	株式会社の規模等に応じた規制について概観し、株式会社の規模等に応じた規制を深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：株式会社の規模等に応じた規制について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：株式会社の規模等に応じた規制について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
9	企業グループに関する規制について概観し、企業グループに関する規制について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：企業グループに関する規制について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：企業グループに関する規制について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
10	変態設立事項について概観し、変態設立事項について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：変態設立事項について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：変態設立事項について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
11	設立中の会社と発起人組合について概観し、設立中の会社と発起人組合について深く理解し、その課題と活用を検討する。			事前：設立中の会社と発起人組合について確認し、その課題と活用を考察する。 事後：設立中の会社と発起人組合について深く理解し、その課題と活用を検討し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
12	違法な会社設立・会社不成立と会社組織に関する訴えについて概観し、違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて確認し、その課題と対策について考察する。 事後：違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		
13	会社設立に関する設立関与者等の責任について概観し、会社設立に関する設立関与者等の責任について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：会社設立に関する設立関与者等の責任について確認し、その課題と対策について考察する。 事後：会社設立に関する設立関与者等の責任について確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。			講義30分、 質疑応答60分。		

14	株式と資本金の額との関係について概観し、株式と資本金の額との関係について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式と資本金の額との関係について確認し、その課題について考察する。 事後：株式と資本金の額との関係について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
15	株式の法的性質について概観し、株式の法的性質について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式の法的性質について確認し、その課題について考察する。 事後：株式の法的性質について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
16	株主の監督是正権について概観し、株主の監督是正権について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主の監督是正権について確認し、その課題について考察する。 事後：株主の監督是正権について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
17	株主平等の原則について概観し、株主平等の原則について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主平等の原則について確認し、その課題について考察する。 事後：株主平等の原則について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
18	株主の権利行使に関する利益供与の禁止について概観し、株主の権利行使に関する利益供与の禁止について深く理解し、その課題と対策について検討する。	事前：株主の権利行使に関する利益供与の禁止について確認し、その課題と対策について考察する。 事後：株主の権利行使に関する利益供与の禁止について確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
19	自己株式の取得について概観し、自己株式の取得について深く理解し、その課題について検討する。	事前：自己株式の取得について確認し、その課題について考察する。 事後：自己株式の取得について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
20	株式発行による資金調達について概観し、株式発行による資金調達について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式発行による資金調達について確認し、その課題について考察する。 事後：株式発行による資金調達について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
21	株式会社の機関設計に関する規制について概観し、株式会社の機関設計に関する規制について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式会社の機関設計に関する規制について確認し、その課題について考察する。 事後：株式会社の機関設計に関する規制について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
22	株主総会の権限について概観し、株主総会の権限について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主総会の権限について確認し、その課題について考察する。 事後：株主総会の権限について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
23	株式の相互保有について概観し、株式の相互保有について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式の相互保有について確認し、その課題について考察する。 事後：株式の相互保有について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
24	株主総会の決議方法と決議の瑕疵について概観し、株主総会の決議方法と決議の瑕疵について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主総会の決議方法と決議の瑕疵について確認し、その課題について考察する。 事後：株主総会の決議方法と決議の瑕疵について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
25	会社の業務執行と代表について概観し、会社の業務執行と代表について深く理解し、その課題について検討する。	事前：会社の業務執行と代表について確認し、その課題について考察する。 事後：会社の業務執行と代表について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
26	取締役と会社との関係について概観し、取締役と会社との関係について深く理解し、その課題を検討する。	事前：取締役と会社との関係について確認し、その課題を考察する。 事後：取締役と会社との関係について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
27	会社と取締役の利益相反行為について概観し、会社と取締役の利益相反行為について深く理解し、その課題を検討する。	事前：会社と取締役の利益相反行為について確認し、その課題を考察する。 事後：会社と取締役の利益相反行為について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
28	取締役の報酬について概観し、取締役の報酬について深く理解し、その課題を検討する。	事前：取締役の報酬について確認し、その課題を考察する。 事後：取締役の報酬について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
29	取締役の会社に対する責任について概観し、取締役の会社に対する責任について深く理解し、その課題について検討する。	事前：取締役の会社に対する責任について確認し、その課題について考察する。 事後：取締役の会社に対する責任について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
30	取締役の第三者に対する責任について概観し、取締役の第三者に対する責任について深く理解し、その課題について検討する。	事前：取締役の第三者に対する責任について確認し、その課題について考察する。 事後：取締役の第三者に対する責任について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、 質疑応答 60分。
教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝えます。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（25%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： テーマを割当、報告することを求めます。授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	演 習 II (Seminar II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	演 習 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 卒 業 論 文 の 作 成 を 目 標 と し て 、 各 自 が テ ー マ に 基 づ い て 積 極 的 に 研 究 を 行 っ て い く。									
授 業 目 標 : 卒 業 論 文 の 作 成 を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン ゼ ミ の 目 的 の 確 認 、 報 告 事 項 の 確 認 、 報 告 の 順 番 決 め 等 を 行 う。					事 前 : 特 に な し 事 後 : 次 回 以 降 の た め の 準 備		講 義 90 分	
2 ~ 27	報 告 (卒 業 論 文 へ 向 け て の 報 告) そ れ ぞ れ の テ ー マ に 基 づ い て ま と め て 報 告 し て も ら う。					事 前 : 報 告 準 備 と 内 容 の 確 認 事 後 : 内 容 の 再 確 認 と 改 善		報 告 50 分 質 疑 40 分	
28 ~ 30	報 告 (卒 業 論 文) 卒 業 論 文 と し て ま と め た 内 容 を 報 告 し て も ら う。					事 前 : 報 告 準 備 と 内 容 の 確 認 事 後 : 内 容 の 再 確 認 と 改 善		報 告 50 分 質 疑 40 分	
教 本 : 桜 井 久 勝 「財 務 会 計 講 義」(最 新 版)、中 央 経 済 社。 (演 習 I で 使 用 し た も の を 引 き 続 き 使 用)					参 考 文 献 : 適 宜、そ れ ぞ れ の テ ー マ に 合 わ せ て 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 平 常 点 (10%)、レ ポ ー ト ・ 報 告 (90%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎 回 の 授 業 に 参 加 す る こ と が 必 須 の 条 件 に な る。ま た、ゼ ミ 生 同 士 で 協 力 す る べ き と き に き ち ん と 協 力 す る こ と。 な お、シ ラ バ ス の 計 画 は 予 定 で あり、適 宜 必 要 に 応 じ て 内 容 を 柔 軟 に 変 更 す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	演 習 II (Seminar II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	演 習 I							
	そ の 他	な し							
<p>授業概要：</p> <p>前期は、英語力アップのために、1年次のテキストの未読Chapterを読みます。また演習Iで読み終えたアメリカについてのテキストを用いて、その内容について、英語で自分の意見をまとめる練習もします。意見文のライティングの練習は、卒論の構成の基礎になります。また、実用英語検定試験の2級以上の合格を目標に、実用英語の力を養う教材を用意します。英語を用いることが楽しくなることを願っています。後期はそれぞれの興味に従って、卒論に取り組む準備を毎回重ねてゆきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>英語文化圏の人々の物の見方や生活様式について、視野を広げ、理解を深め、それに基づいて、自分の興味のある分野について卒論を書くことが目標です。また、CEFR(Common European Framework of Reference)のB2(英検2級レベル)の力を習得することも目標です。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Welcome to Britain Chapter 8 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の日の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
2	Welcome to Britain Chapter 8 Part 2 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
3	Welcome to Britain Chapter 8 Part 3 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
4	Welcome to Britain Chapter 9 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
5	Welcome to Britain Chapter 9 Part 2 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
6	Welcome to Britain Chapter 9 Part 3 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
7	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
8	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
9	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
10	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
11	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
12	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
13	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
14	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	
15	Welcome to Britain Chapter 10 Part 1 Handout (CEFR B2) Writing (your opinion)					事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。		音読30分 課題60分	

16	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
17	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
18	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
19	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
20	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
21	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
22	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
23	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
24	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
25	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
26	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
27	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
28	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
29	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
30	全体：英語教材を用いて、実用英語力アップのための演習。 個人指導：各学生の興味に基づいて、卒論に向けての準備	事前：教材に目を通す。 事後：課題の英語表現を正確に言えるようにする。	一斉授業 45分 個人指導 45分
教本： <i>Welcome to Britain</i> T. Knight 鶴見書店 <i>Iconic America</i> J. Miller, T. Kaya 成美堂		参考文献： 必要に応じて、ハンドアウトで配布。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%)、等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 与えられた課題に積極的に取り組んでください。また、英検2級合格を目指し、英語を楽しく学ぶことを願っています。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>演習Ⅱでは、就職支援とともに、卒業論文にむけて着実に力をつけることをめざします。各自の興味関心に沿った論文をよみ、ディスカッションをする形で授業を展開していきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会人として必要な知識を身につけ、自覚を高めるとともに卒業論文の完成をめざします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：授業を通じて何を考えたかまとめる		講義30分 グループワーク30分 発表30分	
2	文章読解Ⅰ 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う					事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義60分 ディスカッション30分	
3	文章読解Ⅱ 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う					事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義60分 ディスカッション30分	
4	文章読解Ⅲ 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う					事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義60分 ディスカッション30分	
5	文章読解Ⅳ 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う					事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義60分 ディスカッション30分	
6	文章読解Ⅴ 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う					事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義60分 ディスカッション30分	
7	卒論テーマの検討 自分が今どういうことに興味関心があるのか話し合い、卒論テーマの方向性を探る					事前：自分の興味関心を整理する 事後：授業で何を考えたかまとめる		講義10分 グループワーク60分 発表20分	
8	プレゼンテーションⅠ テーマ設定グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担しておく					事前：自分の興味関心についての文献を読む 事後：分担にそって作業		講義10分 グループワーク80分	
9	プレゼンテーションⅡ 準備グループ毎に素材をもちより、流れをきめ、補足する資料等を検討する					事前：作業割り当てに沿って準備 事後：プレゼン資料を作成する		グループワーク90分	
10	プレゼンテーションⅢ 発表グループ毎にプレゼンテーションをし、批評する					事前：プレゼンのシュミレーション 事後：プレゼンで何を改善すべきかをまとめる		発表60分 ディスカッション30分	
11	データの読み方 量的調査についてどう理解するかを理解する					事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義70分 ディスカッション20分	
12	データの活用の仕方： レポートや論文において、各種データをどう活用するかを理解する					事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義60分 グループワーク30分	
13	データの活用の実践Ⅰ 各自、データを使ってミニレポートを作成する					事前：配布資料を読む 事後：レポートの改善点を考える		講義90分	
14	データの活用の実践Ⅱ 各自、データを使ったプレゼンテーションを行う					事前：プレゼン資料を作成 事後：プレゼンの改善点を考える		講義10分 発表50分 ディスカッション30分	
15	前期のふりかえり 前期の活動を総括し、自分の成長を理解し、今後の課題を設定する					事前：前期の自分をふりかえっておく 事後：課題をどう実践するか考える		講義30分 ディスカッション60分	

16	夏休みの報告 前期の課題を夏休み期間中どう実践したのか報告し、後期の課題とそのための方策についてまとめる	事前：夏休みの活動を振り返る 事後：どう実践するか考える	講義20分 発表50分 ディスカッション20分
17	文章読解Ⅵ 各自興味がある領域の文献を読み、話し合う	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義60分 ディスカッション30分
18	文章読解Ⅶ 各自興味がある領域の文献を読み、話し合う	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義60分 ディスカッション30分
19	文章読解Ⅷ 各自興味がある領域の文献を読み、話し合う	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義60分 ディスカッション30分
20	プレゼンテーションⅣ テーマ設定 グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担する	事前：テーマ案を考える 事後：分担にそって作業	講義10分 グループワーク80分
21	プレゼンテーションⅤ 準備 グループ毎に素材をもちより、補足する資料等を検討する	事前：持ち寄る資料を作成 事後：分担にそって作業	グループワーク90分
22	プレゼンテーションⅥ 発表 グループ毎にプレゼンテーションをし、批評する	事前：プレゼンのシミュレーション 事後：改善点をまとめる	発表60分 ディスカッション30分
23	アカデミックライティングの基礎Ⅰ 引用文献のつけたなど、アカデミックライティングの基礎を理解する	事前：配付資料を読む 事後：配付問題を解く	講義70分 ディスカッション20分
24	アカデミックライティングの基礎Ⅱ 実際に、いくつかの資料をつかかってミニレポートを作成してみる	事前：前回の復習 事後：書いたレポートを確認	講義20分 ディスカッション70分
25	アカデミックライティングの基礎Ⅲ 第13回で各自が作成したミニレポートをふりかえり、自分の成長と課題を確認する	事前：ミニレポートを読む 事後：成長と課題をまとめる	講義30分 発表20分 グループワーク40分
26	プレゼンテーションⅦ テーマ設定 グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担しておく	事前：テーマ案を考える 事後：分担にそって作業	講義10分 グループワーク80分
27	プレゼンテーションⅧ 準備 グループ毎に素材をもちより、補足する資料等を検討する	事前：持ち寄る資料を作成 事後：分担にそって作業	グループワーク90分
28	プレゼンテーションⅨ 発表 グループ毎にプレゼンテーションをし、批評する	事前：プレゼンのシミュレーション 事後：改善点をまとめる	講義60分 ディスカッション30分
29	卒論についての検討 各自自分のテーマについて話し合い、課題をまとめる	事前：テーマ案をまとめる 事後：授業内容をまとめる	発表60分 講義30分
30	まとめ 今年度の活動を総括し、各自自分の成長を理解する	事前：今年度の自分の活動を振り返っておく 事後：総括と課題をまとめる	講義10分 グループワーク80分
教本： 適宜資料を配布します		参考文献： 授業中に指示します	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（60%）、プレゼンテーション・レポート等（40%）			
学生へのアドバイス： ゼミは大学生活の集大成ともいえるものです。楽しく仲良く授業をすすめながら、各自問題意識を持って着実に成長しましょう。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰ							
	その他	国際関係論Ⅰ・Ⅱ その他、国際関係関連科目							
<p>授業概要：</p> <p>本演習では、実社会で企業活動を行う際に必要な国際関係に関する基礎知識の習得とともに、国際関係に関する諸課題について自らの力で考え表現する力を養うことを主軸とする。</p> <p>演習Ⅰを通して考察した具体的な国際問題に関する諸課題について理解を深める。最終的に、自らの興味関心のあるテーマに関する論点を整理するとともに課題を明らかにし、卒業論文または最終レポートとしてまとめる。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 国際関係に関する諸課題について国際関係論または国際公法の視点から分析する力を身につける。</p> <p>2. 国際関係に関する特定の分野について自らの見解を提示する力を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	演習Ⅱを履修するに当たって（導入）					事前：卒論テーマの検討 事後：論点整理		講義 30分、討論 60分	
2・3	テーマに関する発表と討論					事前：報告準備 事後：発表内容の振り返り		報告 40分、討議 50分	
4	資料収集の仕方を確認する					事前：配付資料精読 事後：まとめノートの作成		講義 50分、討論 40分	
5・6	先行研究・データの活用法を確認する					事前：配付資料精読 事後：まとめノートの作成		講義 50分、討論 40分	
7	論文の組み立て方（章立て）について確認する					事前：配付資料の精読 事後：まとめノートの作成		講義 50分、討論 40分	
8・9	中間報告に向けた発表資料の作成					事前：発表資料の収集・整理 事後：発表資料の推敲		資料作成 90分	
10・11	資料収集した文献等に関する発表					事前：報告準備 事後：発表内容の振り返り		報告 50分、討議 40分	
12～14	論文構想発表					事前：報告準備 事後：発表内容の振り返り		報告 50分、討議 40分	
15	前学期のまとめと今後の作業の進め方に関する確認					事前：配付資料精読 事後：前学期の振り返り		講義 50分、討論 40分	
16～26	研究テーマに関する発表					事前：報告準備 事後：発表内容の振り返り		報告 50分、討議 40分	
27～29	卒業研究の総括と卒業論文またはレポートの執筆					事前：原稿の執筆 事後：原稿の推敲		論文執筆 90分	
30	卒業研究の総括					事前：原稿の推敲 事後：まとめノートの作成		講義 30分、討論 60分	
<p>教本： 特に指定しません。</p> <p>参考文献： 論文の書き方に関する文献を中心に授業中に指示する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（40%）、卒業論文または卒業レポート（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>4年間の学生生活の集大成として松蔭大学に在籍した証を残せるように、ともに頑張りましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	演習Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 演習Ⅰで立てた研究計画に基づき、卒業論文を作成します。研究の進捗状況はゼミノートに記し、指導教員と共有しながら研究を進める。研究発表会では、ゼミ生同士で意見を述べ、研究内容をブラッシュアップしていく。									
授業目標： 自分の満足のいくような卒業論文を完成させる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：卒業論文作成の展望を持つ 事後：卒業論文作成の展望を修正する		演習	
2・3	研究計画発表会					事前：発表資料を作成する 事後：研究計画を修正する		演習	
4	研究倫理					事前：研究倫理について調べる 事後：研究倫理を理解する		演習	
5	研究倫理審査申請書の作成					事前：研究倫理審査申請書を作成する 事後：研究倫理審査申請書を提出する		演習	
6	調査・実験準備					事前：調査・実験の準備 事後：調査・実験の準備		演習	
7	予備調査・実験の実施					事前：調査・実験の準備 事後：調査・実験方法の修正		演習	
8・9	調査・実験の実施					事前：調査・実験の準備 事後：調査・実験の実施		演習	
10・11	データの整理・分析					事前：調査・実験により得られたデータを整理する 事後：データを分析する		演習	
12・13	分析結果のまとめ					事前：データを分析する 事後：分析結果をまとめ、中間発表資料を作成する		演習	
14・15	卒業研究中間発表会①					事前：発表資料を作成する 事後：いただいた意見をまとめる		演習	
16～23	卒業論文の作成					事前：卒業論文を作成する 事後：卒業論文を作成する		演習	
24・25	卒業研究中間発表会②					事前：発表資料を作成する 事後：いただいた意見をまとめる		演習	
26～29	卒業論文の作成					事前：卒業論文を作成する 事後：卒業論文を作成する		演習	
30	卒業論文発表会					事前：発表資料を作成する 事後：いただいた意見をまとめる		演習	
教本： 『心理学の卒業研究ワークブック 発想から論文完成までの10ステージ』 小塩真司・宅香菜子 金子書房									
参考文献： なし									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、卒業論文（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 積極的にゼミに参加し、主体的に研究を進めましょう。									
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。									